

話題の終結と開始のための相互行為

—マルチモダリティーの観点からの分析—

大谷麻美(京都女子大学)

1. はじめに

会話における話題の展開には、流れるように連鎖しながら話題が移り変わる「切れ目ないトピック推移」と、明確に話題を区切りながらすすむ「境界づけられたトピック推移」とが見られる(串田, 1997). 大谷(印刷中)は、日本語とオーストラリア英語の会話の話題展開方法を調査し、日本語では、オーストラリア英語と比較して「境界づけられたトピック推移」の頻度が非常に高いことを指摘した. そこで本稿では、日・英語の話題展開方法の対照研究の一環として、日本語の「境界づけられたトピック推移」が会話参加者間でどのように成し遂げられるのかを、視線とうなずきに焦点を当てて分析する.

2. 先行研究と本研究の目的

Schegloff (2007) は、話題の終結の基本的な形式が次のような3ターンから構成されると指摘する. 1)発案者からの要約, 評価, ジョークなどを用いた話題の終結の提案, 2)受け手による何らかのアクションによる終結への同調, 3)発案者による終結の合図. また、このような境界づけられた話題の終結部に頻繁に見られる言語的特徴については、長い沈黙やポーズ, 声の調子の変化, 文脈転換を明示する表現, 相手の発話の繰り返し・あいづち・笑いだけ等の限られた反応, まとめや評価の発話などが指摘されている(e.g., Reichman, 1978; メイナード, 1993; Schegloff, 2007).

しかし実際の日本語会話データの話題終結部には、Schegloff の提示する3ターンが現れない事例や、先行研究ではほとんど指摘されていない視線やうなずき等の身体動作が関与していると思われる事例も見られる. そこで本稿では、特に視線とうなずきが話題終結に大きく機能していると思われる事例を取り上げ、そこで見られる相互行為の特徴を記述する.

3. データ

本調査では、日本人の男性3人1組の初対面会話、8組をデータとして用いる. 各会話は30分で合計4時間分である. 会話参加者はいずれも20代の大学生、大学院生で、本会話実験のために集められ、会話相手とは会場で初めて出会った者同士である. 教授宅のホームパーティーで出会ったという設定のみを定め、会話テーマは特に定めずに自由に会話をを行った. 会話は録音、録画し、そのトランスクリプトと映像を用いて分析を行った.

4. 分析と考察

本データの中では、話題の終結部で相手から視線をそらす動きが頻繁に見られ、その動きが話題の終結を示唆する重要な役割を果たしていると考えられる事例がいくつも見られた. 以下では、話題の送り手が視線をそらすことで自ら話題を終結に導く事例と、話題の受け手が視線をそらす事で終結に導く事例の2つを検討する. さらにその反例として、視線による示唆を行わないまま話題の終結と新話題の導入を行ったために、会話相手に戸惑いを与えた事例を検証する.

4.1 話題の送り手からの視線そらしによる終結の事例

例1では、J36が主たる情報の送り手となり、自分の研究内容、特に統計データに補正をかけることについて話している. しかし06, 07行で会話は途切れがちになり、07行で話題は終結し、08行からはJ42の所属学部についての新話題が展開される. 先行話題が終結するプロセスとしては、05行のJ42のあいづちに対して、情報の送り手であるJ36が06行で「はい」としか答えず2.3秒の沈黙が生じる. このJ36の最小限の反応は、Schegloffの指摘する話題終結への1つ目のターンである終結の提案と考えることができる. しかしそれに対して他の2人からは何の発話もなく、J36は一旦終結しかけた話題についてさらに07行で情報を付け足している(「その補正できるモデルっていうのもあるので」). それに対しても、情報の受け手であるJ40, J42からは何の反応もなく、1.4秒の沈黙の後にJ42が新たな話題を開始する.

この旧話題の終結と新話題の開始の流れは、発話だけに着目すると、07行のJ36の発話の後に、他の参加者達の言語

的反応がないまま新話題へと進んでいる点からも、Schegloff の 3 つのターンを踏まないかなり強引な話題の移行に見える。しかし、参加者達の視線に着目すると、発話には現れないものの、参加者たちが視線で話題終結の同意をとりあっていることがうかがえる。J36 は、06 行で「はい」といいながら視線を下に向けている。話題の主たる送り手である J36 が視線を下げるということは、視線で次の話者を選択しないということになり(e.g., Lerner, 2003; 榎本・伝, 2003), 自らこの話題から撤退することを示唆し、Schegloff の 1 つ目のターン、つまり話題終結の提案となっていると考えられる。それに引き続いて J40 も 06 行後半ですぐに視線を落としている。これは 2 つめのターン、つまり J36 の提案に同調してこの話題からの撤退に同意を示したと考えられる。07 行で J36 が情報を付加した際、J40 はすぐに話し手である J36 に視線を向けるが、J36 が一瞬 J42 を見た以外は視線を上げない様子を確認して再度視線を下げる。ここでは Schegloff の 1-2 のターン(終結の提案と同意)が再度繰り返されたと考えられる。このように、主たる情報の送り手 J36 の視線そらしを契機に、視線による話題終結の相互行為が達成されたと解釈することができよう。

さらに、このような視線の動きに加え、会話参加者達のうなずきも話題の終結を示唆していると考えられる。J36 は 06, 07 行で自らの発話の後に繰り返すうなずきしている。特に 07 行では、J36 のうなずきの後すぐに、J42 も同調するよううなずき始めている。06, 07 行のいずれでも視線をそらしながらうなずくことで、J36 はそれ以上この話題について話す事が無いことを身体行動で示したと考えられる。そのためこのうなずきも話題の終結の提案と解釈でき、07 行の J42 の同調するよううなずきは、提案への同意と見なすことができよう。

(例 1) No.67 ((J36 が自分の研究テーマについて話しており、統計結果に補正をかける説明をしている))

- 01 J42 : 補正をかけるという ↑ =
 02 J36 : =そうですね。補正をかけるためにどういう、
 03 J42 : うん
- 04 J36 : その前に日本人はレスポンススタイルというのがあるのかっていうのを=
 J36GZ 42-----40-----
 J40GZ 36-----
 J42GZ down---36-----
- 05 J42 : =なるほど。
 J36GZ (40)----
 J40GZ (36)----
 J42GZ down--- ND3
- 06 J36 : はい。(2.3)
 J36GZ down---ND7
 J40GZ (36)-down--
 J42GZ 36-----
- 07 J36 : ま あ: その補正: す できるモデルっていうのもあるので。(.) はい。(1.4)
 J36GZ down-----42-----down-----ND7
 J40GZ (down)---36-----down-----
 J42GZ (36)-----ND3
- 08→ J42 : じゃ え::と ぼくは まあ あ: 英文科なんですけれども、
 J36GZ (down)-----42-----
 J40GZ (down)-42-----down
 J42GZ (36)-----40-----
- 09 まあ文学は全くやっていないので、
 J36GZ (42)-----
 J40GZ 42-----
 J42GZ down-40-----



4.2 話題の受け手からの視線そらしによる終結の事例

一方、視線を用いた話題終結の提案は、情報の受け手の側から行われることもある。例 2 では、3 人の中で唯一理系の研究を行っている J40 が、他の参加者に求められて理系学部しかもたない大学について説明をしている。しかし 07 行でその話題は打ち切れ、08 行からは J40 の修士論文のテーマについての新しい話題が導入される。J40 が理系大学の名前を次々に挙げ説明を行う(01-03 行)のを聞いていた J37 は、04-05 行で「(理系専門の大学が) あるんですか そんなに、全然知らなかった。そっか」と反応するものの、その発話の途中で視線を J40 から下にそらし目をこすり始める(04-05 行)。それを受けて情報の送り手である J40 もすぐに視線を下に向け(04 行)、引き続いてもう一人の受け手である J35 も

視線を下にそらす(05行). J37は05行目の最後で一瞬J40に視線を向けるものの左に視線をそらし、そのまま顔を上げることはなかった. ここではJ37の視線そらしが話題終結の提案となり、それに続いてJ40, J35も視線をそらすことでその提案に同調し、円滑に話題は終結される. 08行目でJ37が次の新たな話題(J40の修論のテーマ)を開始することで、全員の視線は再度互いに向き合い、次の話題が展開してゆく.

(例2) No.70 ((J40が理系の大学について話している))

01 J40: 工学院とか.
 02 J37: あ:工学院もそうか.
 03 J40: 電通とかも, いろいろありますね. 理系しかない大学は.
 J35GZ 40-----ND3-down-----
 J37GZ 40-----ND-----
 J40GZ 37-----
 04 J37: ああ: あるんですかそんなに.
 J35GZ 40-----
 J37GZ (40)-----down---
 J40GZ (37)-----down
 05 J37: あ 全然知らなかった. (1.7) ° そっか. ° (3.4)
 J35GZ (40)-----down-----
 J37GZ (down)-((目をこする))-down-----40---
 J40GZ (down)-----
 06 J35: うん.
 J35GZ (down)+
 J37GZ left---
 J40GZ (down)---
 07 J40: うん そうっすね. (1.7)
 J35GZ (down)-----
 J37GZ (left)-----40
 J40GZ (down)-ND-----
 08 J37: 修論は もう 決まってるんですか↑ ° 書くことは
 J35GZ 37-----40-----
 J37GZ (40)-----
 J40GZ (down)-37-----
 09 J40: いや, 分かんないっすね hhh
 J35GZ (40)-----
 J37GZ (40)-----
 J40GZ 37-----

J40 J35 J37



4.3 話題終結の合意がとられない事例

一方, 上記の例とは逆に, 発話, 視線のいずれにおいても話題終結の合意がとられないまま新話題が導入され, 相手が戸惑いを見せる例を見てみよう. 例3は, J42が非常勤先の大学での採用の際に模擬授業があったという話をしている途中で, J37によりかなり唐突に新話題が導入される事例である. J42は模擬授業について話しており, J37は常に伏し目がちに聞いている(01-09行). このJ37の視線配布は話題の終結を提案しているのかもしれないが, J42, J43はほとんど視線をそらすずに相手を見ながら話しており(04-09), また, 発話にも話題終結部の特徴が現れていないため, 話題の終結に合意ができていないとは考えにくい. 実際, 09行の最後にJ42はJ37に視線を向けて彼を次の話者として指名しているので, J37のコメントなどを期待していたのだろうと推測できる. それにも関わらず, 10行でJ37が学費に関する新話題を開始したため, J42は一瞬戸惑った表情でJ37を直視して「え 学費」と上昇音調で問いかけている(11行). これは, 話題終結のための3ターンもとられず, また, 視線による終結の合意もとられないままの話題終結と新話題の導入が行われたことにJ42が戸惑ったためであると考えられる.

(例3) No.68 ((J42が非常勤先の面接で模擬授業があることを話している))

01 J37: へ::::: 模擬授業なんてあるんですね.
 02 J42: そう. (1.1) 模擬授業ですよ.
 03 J37: あ:::

04 J42: ま 特に 僕は英文科なんで どちらかというとその
 J37GZ away----- down---
 J42GZ down-----43-----away-----
 J43GZ 42-----

05 J42: 自分の専門というのはまず 語学の英語を
 J37GZ (down)-----42-----
 J42GZ 43-----
 J43GZ (42)-----

06 J42: 教えられるかどうかというのが ま [わりと]
 07 J37: [うんうん]
 08 J43: [う::ん]
 J37GZ down-----
 J42GZ (43)-----
 J43GZ (42)-----away

09 J42: 重要になってくると思うんで ま あるかな っていう.
 J37GZ (down)-----
 J42G (43)-----away-----37---
 J43GZ 42-----37-42---

10→J37: ふ::ん (1.5) 学費とかどうしてますか↑
 J37GZ 42-----
 J42GZ (37)-----
 J43GZ 37-----

11 J42: え↑ [学費↑]
 12 J37: [学費] 学振とか取ってますか↑
 J37GZ (42)-----
 J42GZ (37)-----
 J43GZ 42-----

J43 J42 J37



5. まとめ

本稿では、日本語会話における話題終結には、Schegloff の指摘する終結のプロセスが発話だけではなく、視線配布やうなずきによっても遂行される事例があることを示した。会話参加者達は、話題終結の3つのターンに準ずる働き、特に話題終結の提案と同調を、視線を用いて行うことで話題終結と新話題の開始の合意をとっていた。逆に、発話も身体動作も使用せずに話題終結と新話題の導入を行えば、参加者の間に戸惑いを引き起こすことも示した。話題終結部でのこれら身体動作についてはほとんど注目されてこなかったが、発話と同様に非常に重要な機能を果たしていることを指摘できた。

本論は、日・英語の話題展開の対照研究の一環で、日本語に顕著な「境界づけられたトピック推移」の特徴を明らかにするためのものである。従って今後は、このような視線やうなずきの使用が英語にも見られるのか、日本語にこのような「境界づけられたトピック推移」が多用される理由などを明らかにしていく必要がある。

参考文献

- 榎本美香・伝康晴 (2003). 3人会話における参与役割の交替に関わる非言語行動の分析 言語・音声理解と対話処理研究会, 38, 25-30.
- 串田秀也 (1997). 会話のトピックはいかに作られていくか 谷泰(編) コミュニケーションの自然誌 新曜社 pp.173-212.
- Lerner, G. H. (2003). Selecting next speaker: The context-sensitive operation of a context-free organization. *Language in Society*, 32(2), 177-201.
- メイナード泉子, K. (1993). 会話分析 くろしお出版
- 大谷麻美 (印刷中). 日・英語の初対面会話における話題の連鎖と展開: 共-選択の観点からの分析 社会言語科学, 21(1).
- Reichman, R. (1978). Conversational coherency. *Cognitive Science*, 2 (4), 283-327.
- Schegloff, E. A. (2007). *Sequence organization in interaction*. Cambridge: Cambridge University Press.

【付録】

J35GZ: 視線の送り手, 40---: 視線の送り先と期間, (40)--: 視線の送り先が前行から継続している場合
 ND: うなずき, ND7: うなずきの回数